

《 2021年5月 マーケット概況 》

| 資産クラス | 指数 | 3月 | 4月 | 5月 | 当月リターン | 年初来リターン |
|--------------|-------------|-----------|-----------|-----------|--------|---------|
| 国内株式 | 日経平均株価 | 29,178.80 | 28,812.63 | 28,860.08 | 0.2% | 5.2% |
| | マザーズ指数 | 1,203.28 | 1,201.77 | 1,150.06 | -4.3% | -3.9% |
| 外国株式 | S&P500 | 3,972.89 | 4,181.17 | 4,204.11 | 0.5% | 11.9% |
| | MSCIEurope | 1,905.02 | 1,983.16 | 2,056.97 | 3.7% | 11.8% |
| 新興国株式 | 上海総合指数 | 3,441.91 | 3,446.86 | 3,615.48 | 4.9% | 4.1% |
| | ムンバイ SENSEX | 49,509.15 | 48,782.36 | 51,937.44 | 6.5% | 8.8% |
| 海外金利 | 米政策金利 | 0.25 | 0.25 | 0.25 | - | - |
| | 米国債 10年 | 1.74 | 1.63 | 1.58 | - | - |
| 国内金利 | 政策金利 | -0.04 | -0.02 | -0.03 | - | - |
| | 10年物国債 | 0.09 | 0.09 | 0.08 | - | - |
| 外国為替 (対円) | 米ドル | 110.70 | 109.27 | 109.54 | 0.2% | 6.1% |
| | ユーロ | 129.83 | 131.32 | 133.95 | 2.0% | 6.2% |
| コモディティ | ICE 原油(先物) | 59.16 | 63.58 | 66.32 | 4.3% | 36.7% |
| | COMEX 金(先物) | 1,715.60 | 1,767.70 | 1,905.30 | 7.8% | 0.5% |
| 不動産 | 東証 REIT 指数 | 2,013.08 | 2,063.80 | 2,073.55 | 0.5% | 16.2% |
| ヘッジ・ファンド | HFRX 指数 | 1,398.30 | 1,421.11 | 1,426.53 | 0.4% | 3.3% |

◆◇ 株式・債券・為替 ◇◆

[5月の金融市場]

5月の日本株式市場は、連休明けに日経平均が3日間で2,000円以上急落するなど不安定な動きが見られました。月後半は戻り歩調に転じたものの上値は重く膠着感の強い展開が続きました。ワクチン接種の遅れから緊急事態宣言が延長されたことやMSCI世界株価指数の銘柄入れ替えで日本株は29銘柄が除外され新規採用がゼロだったことも需給悪として影響したようです。日経平均の月中変動幅は2,300円に達しましたが、結局最終月間パフォーマンスは-0.2%とほとんど前月と変わらずで終わりました。TOPIXは+1.3%と小幅高となりグロース株に較べてバリュー株が相対的に堅調でした。マザーズ指数は急落後の戻りが鈍く、月間では-4.3%の下落となりました。

米国株は、4月の消費者物価指数が前年同月比4.2%上昇してインフレ懸念が台頭し、金融政策の見直しが早期化するのではとの思惑から一時ダウで高値から1,500ドル以上下落する場面が見られました。ただ、長期金利の上昇が限定的であったことや物価上昇は一過性の要因とするFRBの見解もあり、その後は再び堅調な動きを取り戻しました。ダウの月間騰落率は+1.9%でしたが、ナスダックは-1.5%と戻りが悪くグロース株は金利上昇懸念の影響を受けたと言えそうです

為替相場では、ドル円で109円を挟む小動きが続きましたが、26日にバネッタECB専務理事がこの時点でのテーパリングは正当化できないと発言したことからユーロドルの下げがドル円に波及し月末にかけてドル高圧力が強まりました。ユーロ円はユーロ高円安の動きが継続し月末には一時134円台目前まで買われました。

米国10年債金利は、インフレ懸念から一時1.7%まで上昇しましたが、海外投資家の買い需要が旺盛で上昇は続かずその後は1.6%台で比較的安定した動きとなりました。大阪金先物はインフレ期待の高まりやドルインデックスの下落基調を受け、6,200円から6,700円台まで右肩上がりの相場となりました。

[今後の見通し]

GW明け後日本株は変動率が急拡大して大方の予想に以上に調整色を強めました。米国4月のCPIが前年同月比4.2%上昇してインフレ懸念が高まり米国株が大きく反落したのがきっかけでしたが、この間主要国市場の中で特に日本株の弱さが目立っています。欧米に比べワクチン接種が遅れ緊急事態宣言が続いたことやMSCI世界株価指数の除外に伴う外国人の売り圧迫が背景でしょう。また、コロナ禍での会社発表の今期業績見通しは、増益予想であっても事前のコンセンサスに対し下回るものが多かったようです。発表直後に大きく反落するケースが散見され、全体指数の下押しに影響しました。こうした状況下でするので企業の慎重姿勢は止むを得なかったのではないのでしょうか。

それでもアナリスト予想では TOPIX 今期 EPS は 120 円を上回る水準に回復しており、6/4 現在で PER は約 16 倍まで低下しています。年初の 23 倍台から割高感は解消されており下値は限定的と見るべきでしょう。さらに、今期に関してはワクチン接種の進展や経済活動再開の動きから上方修正の可能性も十分有り得ると見ています。最低 10%程度の利益上方修正とコロナ以前 5 年間における景気上振れ期の PER16 倍を勘案すれば、TOPIX で 2,100 水準まで買えることとなります。夏頃に向けコロナ感染拡大状況が落ち着いてくれば、1 割以上の株価上昇があっても不思議ではありません。

世界的にインフレ懸念がくすぶる中、米国 10 年債金利は依然 1.5% (6/4) と緩慢な上昇に留まっています。現在のところ物価の急上昇は一時的との見方が大勢のようです。一方、FRB が注目する雇用の状況は足元でやや予想より弱かったものの、今後は改善傾向がより顕著になることが予想されます。雇用状況によってテーパリングの時期が早まる可能性には注意が必要でしょう。ただその場合でも、市場とのコミュニケーションに万全を期されるため大きな波乱にはつながらないと見ています。

当面グローバル経済においてゴルディロックス的な状況を想定しており、素材などの景気敏感株とハイテク関連のグロース株が極端な偏りがなく循環物色される相場が続くと考えます。6 月から 7 月にかけての日経平均予想レンジは 28,500 円–30,500 円です。

見 通 し

◆◇ オルタナティブ(ヘッジファンド) ◇◆

[5 月のヘッジファンド動向]

米調査会社ヘッジファンドリサーチ社 (HFR 社) が算出する 5 月のヘッジファンド・インデックスは、+0.38% と続伸しました。

5 月の金融市場はインフレを懸念し、大きく動揺しました。物価上昇が心配されていた中で 4 月の米消費者物価指数が 12 年半ぶりの大幅な伸びを記録したことでテーパリング (量的緩和の縮小) がにわかに現実味を帯び、これを受けた米 10 年国債の利回りが 1.7% に上昇、株価は大きく下落しました (前項 5 月の金融市場参照)。恐怖指数と称される VIX 指数が 18 ポイントから 29 ポイントまで一気に上昇したことからも、その時の緊張感が窺えます。その後は、景気回復がまだ本格的でないことから、緩和的政策の継続を確信した金融市場は安定を取り戻しました。このような中、ヘッジファンドはイベント・ドリブン戦略を除いてプラスの成績となりました。

【株式ロング・ショート】

市場が大きく変動する局面があったもののその中身は、ファンドがショート（売り）をしていたテクノロジー銘柄の下落が中心で、ほとんど影響がありませんでした。その後、市場の回復局面ではロング（買い）のポジションが寄与し成績を押し上げることになりました。

【イベント・ドリブン】

株式市場が大きく上下したことから保有銘柄の下落が影響し、成績を落としました。しかしアマゾンがMGMを90億ドルで買収することや、ATTがディスカバリーとメディア事業で統合することなどが報じられ、今後の戦略につながる材料には事欠きませんでした。

【レラティブ・バリュー】

インフレを警戒して米10年国債価格が大きく下落するなど、市場のボラティリティが上昇したため利益機会に恵まれました。一方、米2年国債は10年国債ほどの変動はなく、裁定機会を上手く捉えたファンドは成績を伸ばしました。

【マクロ】

世界的にコロナワクチンの接種が進み、経済の回復を先取る戦略が主流となっています。経済の本格的な回復が期待されるヨーロッパに加え、資源価格の高騰で潤う新興国市場への投資が功を奏しました。ドル・インデックスの下落、DAX（ドイツ株式指数）やCAC40（フランス株式指数）などの上昇がファンドの好成績につながりました。

【CTA】

コモディティ（商品）市場の上昇が成績に寄与しました。投資対象の一つ、WTI（原油先物）は経済の回復を見越した買いが入り、約2年ぶりの水準を回復しました。また、インフレを警戒する資金は金に向かい、NY金先物は7.8%の上昇となりました。大きく動いた株式市場ではコンピューターによる自動売買が成績を後押ししました。

【ヘッジファンドインデックスと主な戦略別の運用成績（月別騰落率）】

| | 年初来 | 2021年 | | | | | 2020年 |
|----------------|-------|--------|-------|--------|-------|--------|-------|
| | | 5月 | 4月 | 3月 | 2月 | 1月 | 12月 |
| ヘッジファンド・インデックス | 3.34% | 0.38% | 1.63% | -0.06% | 1.52% | -0.16% | 2.45% |
| 株式ロング・ショート | 6.62% | 0.85% | 2.99% | 0.87% | 2.84% | -1.04% | 3.60% |
| イベント・ドリブン | 3.28% | -0.02% | 1.56% | -0.24% | 1.33% | 0.62% | 2.18% |
| レラティブ・バリュー | 0.51% | 0.14% | 0.46% | -0.82% | 0.41% | 0.32% | 1.13% |
| マクロ | 2.17% | 0.53% | 1.10% | -0.18% | 1.29% | -0.58% | 2.97% |
| CTA | 5.15% | 1.11% | 1.24% | 0.41% | 2.96% | -0.64% | 3.95% |

データ出所：HFR社

6月期末配当・優待銘柄

足元の株式相場は、新型コロナウイルス感染者とワクチン接種の進捗状況の狭間に一進一退を続け、日経平均株価は29,000円前後の推移となっています。

最近発表された企業業績と今期業績予想は、概ね予想されていた範囲内でのものが大半であり、コロナ感染者の減少とワクチン接種率の上昇から経済活動が正常化されれば、上方修正も想定できます。

そんな中、今月6月末（権利付き＝6月28日）は3月・9月に次ぎ、多くの会社が決算発表を行います。そこで注目されるのが、株主配当と優待制度です。

割安なまま放置されている銘柄も多く、権利落ち後でも配当や優待相当額よりも株価が下落しないことや、戻りが早い事が期待されます。

以下に、6月末決算の高配当銘柄と人気優待銘柄をご紹介します。

【注目の高配当銘柄】

| コード | 銘柄名 | 株価 | 配当利回り(%) |
|------|-----------------|----------|----------|
| 2914 | JT | 2,162.5円 | 6.01 |
| 1605 | INPEX | 753円 | 4.38 |
| 8964 | フロンティア不動産投資法人 | 504,000円 | 4.18 |
| 5214 | 日本電気硝子 | 2,622円 | 3.81 |
| 4631 | D I C | 2,795円 | 3.57 |
| 5110 | 住友ゴム工業 | 1,416円 | 3.53 |
| 3405 | クラレ | 1,136円 | 3.52 |
| 7751 | キヤノン | 2,560円 | 3.51 |
| 8955 | 日本プライムリアルティ投資法人 | 430,500円 | 3.5 |
| 8951 | 日本ビルファンド投資法人 | 694,000円 | 3.27 |
| 3003 | ヒューリック | 1,231円 | 3.08 |
| 5101 | 横浜ゴム | 2,206円 | 2.94 |
| 8804 | 東京建物 | 1,628円 | 2.94 |
| 2503 | 麒麟HD | 2,211.5円 | 2.93 |
| 5201 | A G C | 4,780円 | 2.92 |

※ 配当利回りは2021年5月31日終値現在のQUICKにおけるデータベースに基づく。なお、時価総額が2,500億円以上の銘柄を選出。

【 注目の優待銘柄 】

| コード | 銘柄略称 | 株価 | 優待内容 |
|------|------------|----------|-------------------------------|
| 2180 | サニーサイドアップ | 777 円 | 200 株で自社「bills」で利用可能な優待券 2 枚。 |
| 2206 | 江崎グリコ | 4,180 円 | 100 株で 1,000 円相当の自社商品。 |
| 2268 | B-R サーティワン | 4,030 円 | 100 株で自社で利用できる 1,000 円分の優待券。 |
| 2702 | マクドナルド | 4,955 円 | 100 株で自社商品引換券 1 冊。 |
| 2752 | フジオフード | 1,317 円 | 100 株で自社 PB 商品や株主様優待食事券。 |
| 3028 | アルペン | 2,686 円 | 100 株で自社で利用できる 2,000 円分の優待券。 |
| 3196 | ホットランド | 1,389 円 | 100 株で自社で利用できる 1,500 円分の優待券。 |
| 3319 | ゴルフダイジェスト | 1,350 円 | 100 株で 1,000 円割引クーポン券等。 |
| 3660 | アイスタイル | 516 円 | 100 株で@cosme6,400 円割引券。 |
| 4967 | 小林製薬 | 9,720 円 | 100 株で 5,000 円相当の自社商品。 |
| 4985 | アース製薬 | 6,300 円 | 100 株で 2,000 円相当の自社製品。 |
| 6036 | KeePer 技研 | 2,308 円 | 100 株で自社で利用できる 20%オフ優待カード等。 |
| 7625 | グローバルダイニング | 425 円 | 100 株で自社で利用できる 15%割引券。 |
| 8985 | JHR | 67,200 円 | 100 株で系列ホテル宿泊・レストラン 10%割引券。 |
| 9731 | 白洋舎 | 2,337 円 | 100 株でクリーニング優待券等。 |

※ どの優待内容も原則、最小単位のものを表示しています。そのため、株数によっては優待内容が異なる場合があります。

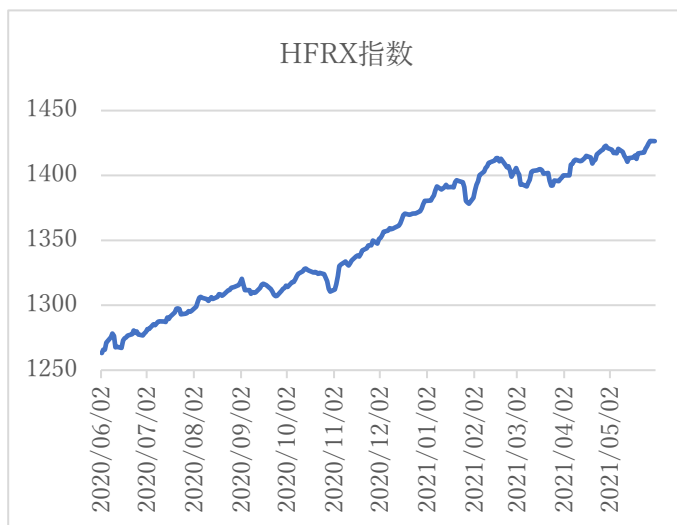
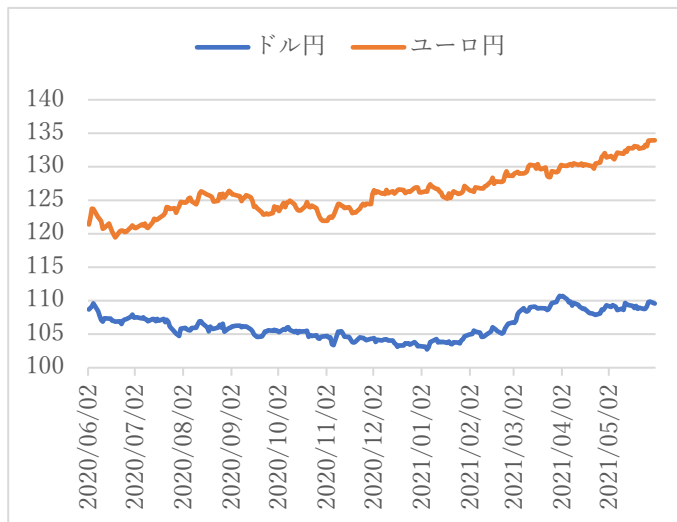
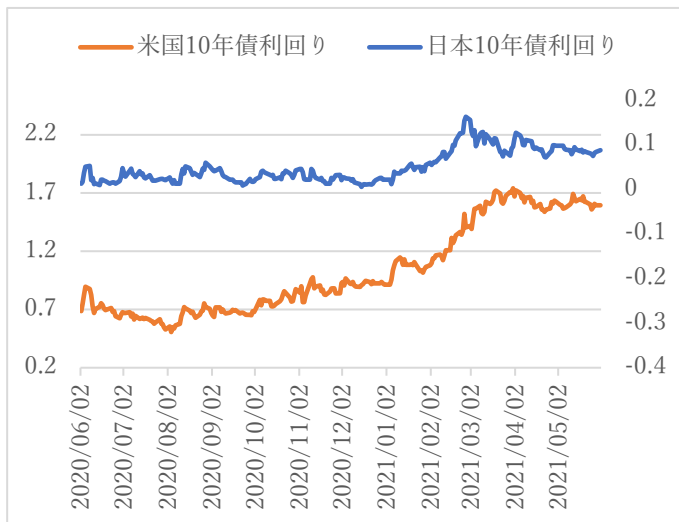
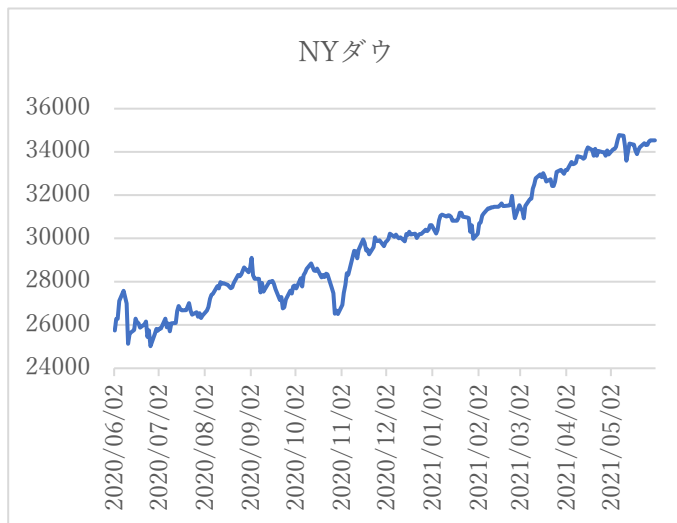
※ 株価は 5/31 の終値。

【 そもそも株主優待って 】

企業が株主優待制度を設ける主な理由としては、自社の事業内容や商品をより多くの投資家に知ってもらおうという意図があり、同時に自社の株をできるだけ多くの個人投資家に保有してもらう目的が挙げられます。そのため保有期間が長いことや、一定数以上の株式を保持することで、より良い優待内容となる場合があります。現在、この株主優待制度は全上場企業の 4 分の 1 以上が実施しており、年々増加傾向にあります。

日本では馴染みのある「株主優待」ですが、企業がこの制度を導入することについて法的な定めがあるわけではなく、欧米をはじめ諸外国においては、殆ど設けられていないようです。また、海外投資家や海外への優待発送なども行われていません。

◆◇ 指標・為替チャート ◇◆



《執筆者》

株式・債券・為替 . . . 西川 雅博

オルタナティブ(ヘッジファンド) . . . 樋爪 功次

そうだったのか!「知って納得、証券投資」Vol.143
6月期末配当・優待銘柄 . . . 金井 良記

本資料は、情報提供のみを目的として作成したもので、いかなる有価証券等の売買の勧誘を目的としたものではありません。また、一般的あるいは特定の投資助言を行うものでもありません。本資料は、信頼できると判断した情報源から入手した情報・データ等をもとに作成しておりますが、これらの情報・データ等また本資料の内容の正確性、適時性、完全性等を保証するものではありません。情報が不完全な場合または要約されている場合もあります。本資料に掲載されたデータ・統計等のうち作成者・出所が明記されていないものは、当社により作成されたものです。本資料に掲載された見解や予測は、本資料作成時のものであり予告なしに変更されます。過去の実績は将来の成果を予測あるいは保証するものではありません。

本資料の表・グラフのデータ出所：REFINITIV、Bloomberg 他

K 光世証券株式会社

金融商品取引業者 近畿財務局長（金商）第14号 加入協会：日本証券業協会

本店 / 〒541-0041 大阪府大阪市中央区北浜2-1-10 TEL：06-6209-0821

東京店 / 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町9-9 TEL：03-3667-7721

